

作成日：2025 年 5 月 14 日

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

絞扼性腸閉塞の緊急手術における ICG 蛍光法の術中評価による腸管温存についての Decision Make の変化

1．研究の対象および研究対象期間

2020 年 10 月 1 日から 2023 年 10 月 1 日までに昭和医科大学病院において絞扼性腸閉塞で緊急手術を行い、ICG 蛍光染色法にて術中腸管虚血の評価を受けた患者さん

2．研究目的・方法

絞扼性腸閉塞は、腸の血流が悪くなって壊死するおそれがある緊急性の高い病気です。手術中に腸を残すか切除するか判断は、患者さんの回復に大きく関わります。これまでの判断は医師の見た目や感触に頼ることが多く、判断にばらつきがありました。最近、ICG という薬を使って腸の血流を光で見る方法が注目されていますが、実際にどのくらい判断の助けになるのかははっきりしていません。そこでこの研究では、ICG が医師の判断にどのように影響するかを調べることを目的としています。

2020 年 10 月から 2023 年 10 月の間に当院で ICG を使って腸の血流を評価した絞扼性腸閉塞の患者さんを対象にしました。手術中に記録された写真や動画を使って、外科の専門医 10 人に ICG の情報を見せずに「どの腸を切除するか」を判断してもらい、その判断と実際の治療方針とを比べます。また、ICG を使った判断との違いが、術後の経過（合併症や入院日数など）に影響しているかも調べます。

3．研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027 年 3 月 31 日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

患者カルテの採血結果（白血球数、アルブミン値、CRP、リンパ球数など）、レントゲン及び CT 結果、手術の記録ビデオ

6．研究組織

研究責任者 昭和医科大学 医学部外科学講座消化器・一般外科学部門 松根佑典

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属： 昭和医科大学 医学部外科学講座消化器・一般外科学部門

氏名： 松根佑典

住所： 〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号： 03-3784-8541